

北海道北部における鳥類生息分布に関する調査

日本野鳥の会道北支部
支部長 小杉 和樹

北海道

はじめに

北海道北部はユーラシア大陸などからの渡りの最短ルートとなるため、ガン・カモ・ハクチョウ類やオジロワシ、オオワシ等の猛禽類といった多種多様な渡り鳥にとって重要な中継地となっています。一方、当地域は強い季節風が吹くため風力発電の適地とされ、風車の建設により再生可能エネルギーの推進を図ることが期待されています。

しかし、地域が広範囲であることや調査員が少ない為に、科学的なデータが不足しており、風車建設による鳥類への影響を軽減する為の方策が十分に検討できないことが課題となっています。その為、当地域における鳥類の生息分布等について、詳細なデータを収集することを目的とし、この調査を実施しました。

調査内容

1. 期間・回数

2014年4月～2015年3月までの毎月1回実施

毎月の調査日は、出来るだけ一定間隔になるよう配慮しました。

2. 場所

稚内市から増毛町までの10市町村にまたがる海岸線約200kmの範囲(図1)。

3. 方法

調査は環境省メッシュマップに従い、上記範囲内の3次メッシュ(1km²)1区画につき1箇所の定点観察ポイントを設定し、合計179箇所で行われました。

調査員1名が海岸線約20kmの範囲を担当し、1つの定点観察ポイントあたり5～10分の双眼鏡を用いた目視調査を行い、周囲約500m範囲内で確認された鳥種と個体数、および可能な限りその他の情報(雌雄、年齢、飛翔場所、気象状況など)を調査シートに記録しました。

記録された鳥種のうち、道北地域の鳥類相を特徴づけると思われるカモ科、ツル科、ミサゴ科、タカ科、フクロウ科、ハヤブサ科の中から21種を調査対象種(表1)として選び、集計処理およびデータベース化による簡易GISによる地図上への分布マッピングを行いました。

4. 結果・考察

本調査では、調査対象種以外も含めて36科101種(表1)の鳥類が記録されました。稚内市ノシャップ岬から増毛町雄冬までの北海道北部日本海側を連続した地区別・月

別の鳥類観察記録としては、例のない規模になりました。調査対象種のデータは、3次メッシュおよび観察日ごとにデータベース化され、調査対象種の生息状況はもちろん、それらの季節変化もわかるものとなりました。また、データベース化により、調査地全体における種ごとの生息状況等も図示（図2～9）出来るようになりました。

図2から図9は、ハクチョウ類と主要な猛禽類の幾つかの種について、一年間の調査地全体における3次メッシュ毎の観察個体数を図示したものです。なお、赤枠で囲っている部分は、その種が10羽以上記録のあった2次メッシュ（10km²）を表しています。

最初に、ハクチョウ類（図2）では、オオハクチョウとコハクチョウ、若しくは識別不明だったハクチョウ属 sp. をまとめて図示しています。ハクチョウ類の記録が少ないのは、渡り時期の一時期だけ飛来するために、調査タイミングと合わないことが要因ですが、天塩川流域や河口付近（幌延町・天塩町）がハクチョウ類にとって重要な休憩場所になっていることが伺えます。

ミサゴ（準絶滅危惧種、図3）では、良好な狩り場と営巣場所がある稚内市勇知、幌延町、天塩町、初山別村での記録が多くなっていることがわかります。

オジロワシ（絶滅危惧ⅠB類、図4）では、遠別町・初山別村で記録は少なくなるものの、稚内市ノシャップ岬から増毛町雄冬まで連続して記録されており、北海道北部日本海側の海ワシ類の生息は広範囲であることと、ほとんどの2次メッシュが赤枠で示されたように個体数も多い事が伺えます。

オオワシ（絶滅危惧Ⅱ類、図5）も、稚内市ノシャップ岬から増毛町雄冬にかけて記録されるものの、観察される地域はやや北側に偏り、より北方的な鳥類であることがわかります。

チュウヒ（絶滅危惧Ⅱ類、図6）では、羽幌町・初山別村でも記録はあるものの、稚内市抜海から天塩町に記録が集中しています。これは、サロベツ原野を中心に南北にチュウヒが好む営巣環境のササ草原が広がり、繁殖適地となっているためと想像されます。

ハイタカ（準絶滅危惧種、図7）、オオタカ（絶滅危惧Ⅱ類、図8）では、観察地域が限られているなどの知見が得られました。

ノスリ（図9）は、稚内市抜海から初山別村まで連続して記録され、特に豊富町稚咲内と稚内市夕来では記録数も多くなっています。ここは、利尻礼文サロベツ国立公園に指定されているサロベツ原野の区域内であり、多様で豊かな自然環境が保全されている事を物語っているものと考えます。

更に、2次メッシュ毎に出現種と確認個体数の多かった地区（図10）や、それぞれの2次メッシュ毎の特徴、つまり猛禽類相のようなものも図示（図11）出来るものとなりました。図10は、稚内市の夕来地区で、オオタカ、オオワシ、オジロワシ、チョウゲンボウ、ミサゴ、チュウヒ、ハイイロチュウヒ、ノスリ、ケアシノスリ、トビの10種と観察種が多く、繁殖期・越冬期共に猛禽類にとって重要な生息地である事が伺えるなど、調査結果の有効活用が期待されます。

以上の調査結果等を本地区の自然環境の保全に役立てられるよう努めてまいります。

表1. 本調査で確認された鳥類

	目	科	和名	学名	調査対象種	
1	カモ	カモ	ヒシクイ	<i>Anser fabalis</i>	○	
2			マガン	<i>Anser albifrons</i>	○	
3			コクガン	<i>Branta bernicla</i>		
4			コハクチョウ	<i>Cygnus columbianus</i>	○	
5			オオハクチョウ	<i>Cygnus cygnus</i>	○	
6			ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>		
7			マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>		
8			オナガガモ	<i>Anas acuta</i>		
9			ホシハジロ	<i>Aythya ferina</i>		
10			キンクロハジロ	<i>Aythya fuligula</i>		
11			シノリガモ	<i>Histrionicus histrionicus</i>		
12			ビロードキンクロ	<i>Melanitta fusca</i>		
13			クロガモ	<i>Melanitta americana</i>		
14			ホオジロガモ	<i>Bucephala clangula</i>		
15			カワアイサ	<i>Mergus merganser</i>		
16			ウミアイサ	<i>Mergus serrator</i>		
17	カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>		
18			アカエリカイツブリ	<i>Podiceps grisegena</i>		
19			ミミカイツブリ	<i>Podiceps auritus</i>		
20	ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>		
21			アオバト	<i>Treron sieboldii</i>		
22	カツオドリ	ウ	ヒメウ	<i>Phalacrocorax pelagicus</i>		
23			カワウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>		
24			ウミウ	<i>Phalacrocorax capillatus</i>		
25	ペリカン	サギ	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>		
26			ダイサギ	<i>Ardea alba</i>		
27			チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>		
28	ツル	ツル	タンチョウ	<i>Grus japonensis</i>	○	
29		クイナ	バン	<i>Gallinula chloropus</i>		
30			オオバン	<i>Fulica atra</i>		
31	カッコウ	カッコウ	ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>		
32			カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>		
33	アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>		
34	チドリ	シギ	アオシギ	<i>Gallinago solitaria</i>		
35			オオジシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>		
36			チュウシャクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>		
37			トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>		
38			カモメ	ユリカモメ	<i>Larus ridibundus</i>	
39		ウミネコ		<i>Larus crassirostris</i>		
40		ワシカモメ		<i>Larus glaucescens</i>		
41		シロカモメ		<i>Larus hyperboreus</i>		
42		セグロカモメ		<i>Larus argentatus</i>		
43		オオセグロカモメ		<i>Larus schistisagus</i>		
44		ウミスズメ		ウトウ	<i>Cerorhinca monocerata</i>	
45		タカ		ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>
46			タカ	トビ	<i>Milvus migrans</i>	○
47				オジロワシ	<i>Haliaeetus albicilla</i>	○
48				オオワシ	<i>Haliaeetus pelagicus</i>	○
49	チュウヒ			<i>Circus spilonotus</i>	○	
50	ハイロチュウヒ			<i>Circus cyaneus</i>	○	
51	ハイタカ			<i>Accipiter nisus</i>	○	
52	オオタカ			<i>Accipiter gentilis</i>	○	
53	ノスリ			<i>Buteo buteo</i>	○	

表1. 本調査で確認された鳥類(つづき)

54			ケアシノスリ	<i>Buteo lagopus</i>	○
55	フクロウ	フクロウ	シロフクロウ	<i>Bubo scandiacus</i>	○
56	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	
57	キツツキ	キツツキ	アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	
58			ヤマゲラ	<i>Picus canus</i>	
59	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	○
60			コチョウゲンボウ	<i>Falco columbarius</i>	○
61			チゴハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>	○
62			シロハヤブサ	<i>Falco rusticolus</i>	○
63			ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	○
64	スズメ	モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	
65			アカモズ	<i>Lanius cristatus</i>	
66		カラス	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	
67			ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	
68			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	
69		シジュウカラ	シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	
70		ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	
71		ツバメ	シヨウドウツバメ	<i>Riparia riparia</i>	
72			イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>	
73		ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	
74		ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	
75			ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	
76		エナガ	エナガ(シマエナガ)	<i>Aegithalos caudatus</i>	
77		ムシクイ	センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	
78		センニュウ	エゾセンニュウ	<i>Locustella fasciolata</i>	
79		ヨシキリ	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>	
80			コヨシキリ	<i>Acrocephalus bistrigiceps</i>	
81		ムクドリ	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	
82			コムクドリ	<i>Agropsar philippensis</i>	
83		ヒタキ	ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	
84			ノゴマ	<i>Luscinia calliope</i>	
85			コルリ	<i>Luscinia cyane</i>	
86			ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus</i>	
87			ノビタキ	<i>Saxicola torquatus</i>	
88			イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	
89		スズメ	ニューナイスズメ	<i>Passer rutilans</i>	
90			スズメ	<i>Passer montanus</i>	
91		セキレイ	ツメナガセキレイ	<i>Motacilla flava</i>	
92			ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	
93		アトリ	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>	
94			カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	
95			ベニヒワ	<i>Carduelis flammea</i>	
96			ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	
97		ツメナガホオジロ	ユキホオジロ	<i>Plectrophenax nivalis</i>	
98		ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	
99			ホオアカ	<i>Emberiza fucata</i>	
100			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	
101			オオジュリン	<i>Emberiza schoeniclus</i>	

※学名・配列などは日本鳥類目録7版に従った

図1. 調査範囲と2次メッシュコード

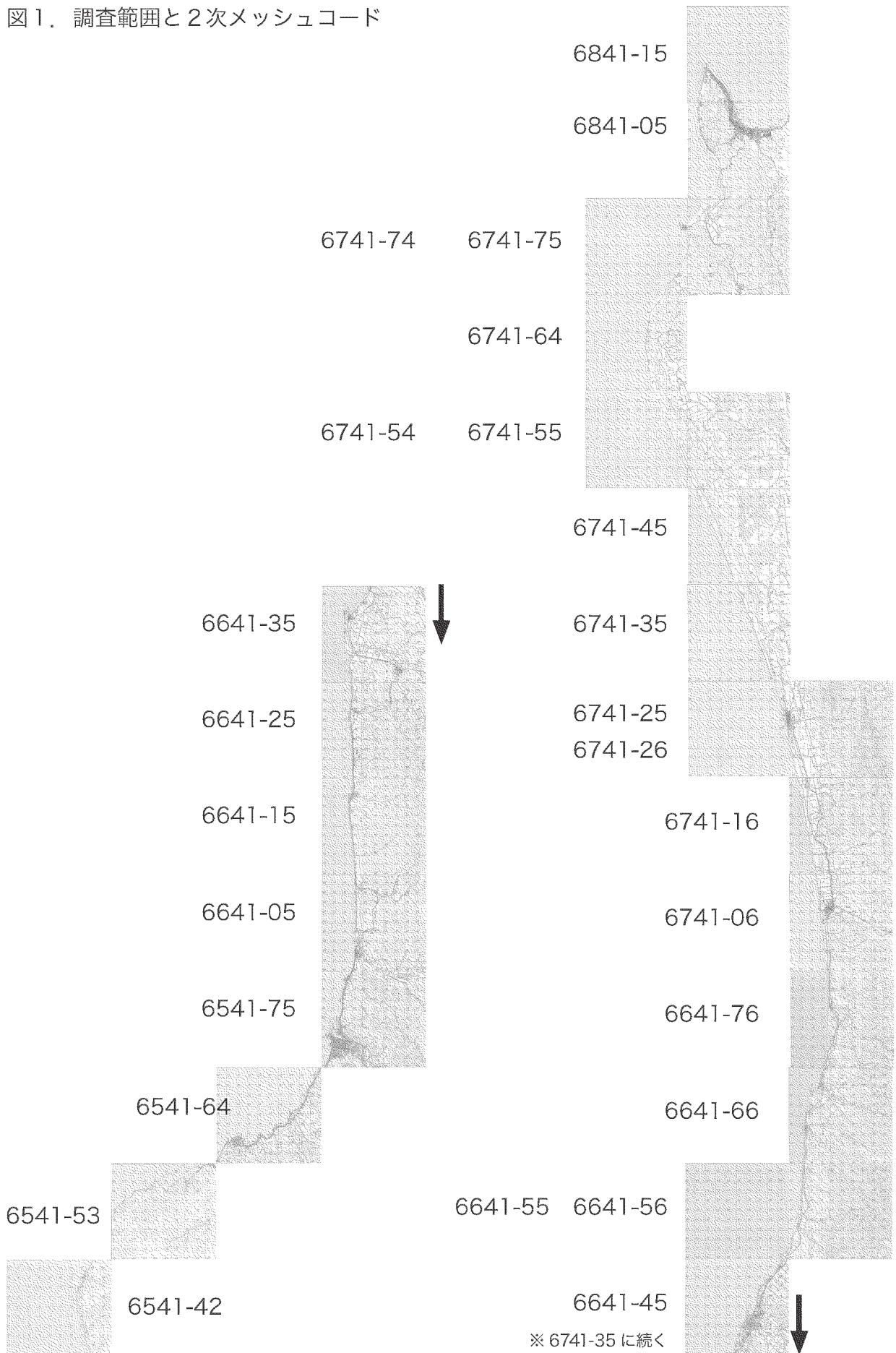


図2. ハクチョウ類

※オオハクチョウ、コハクチョウ、未同定ハクチョウ類を含む

□は10羽以上の記録があった2次メッシュ

→以下同じ

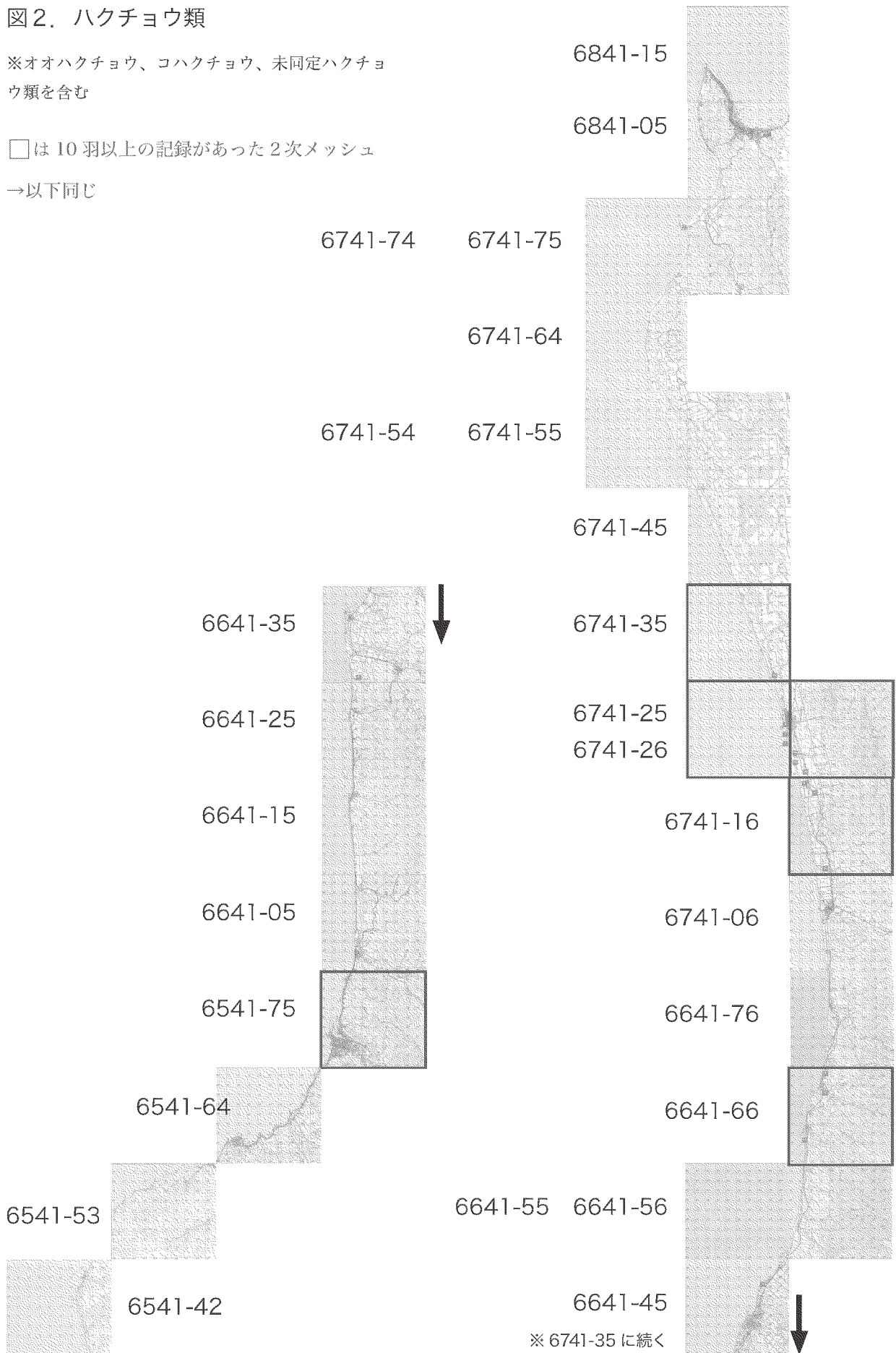


図3. ミサゴ

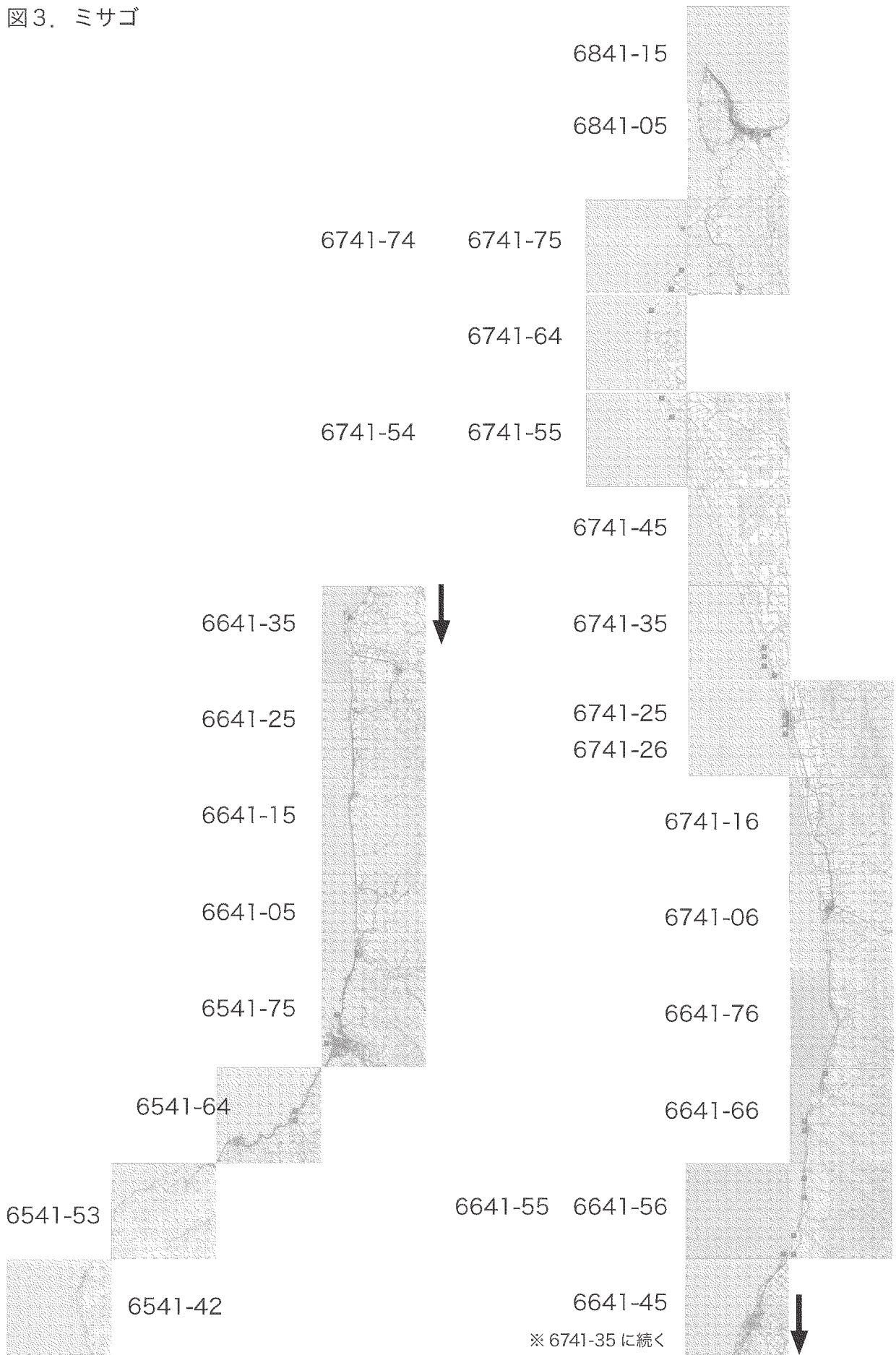


図4. オジロワシ

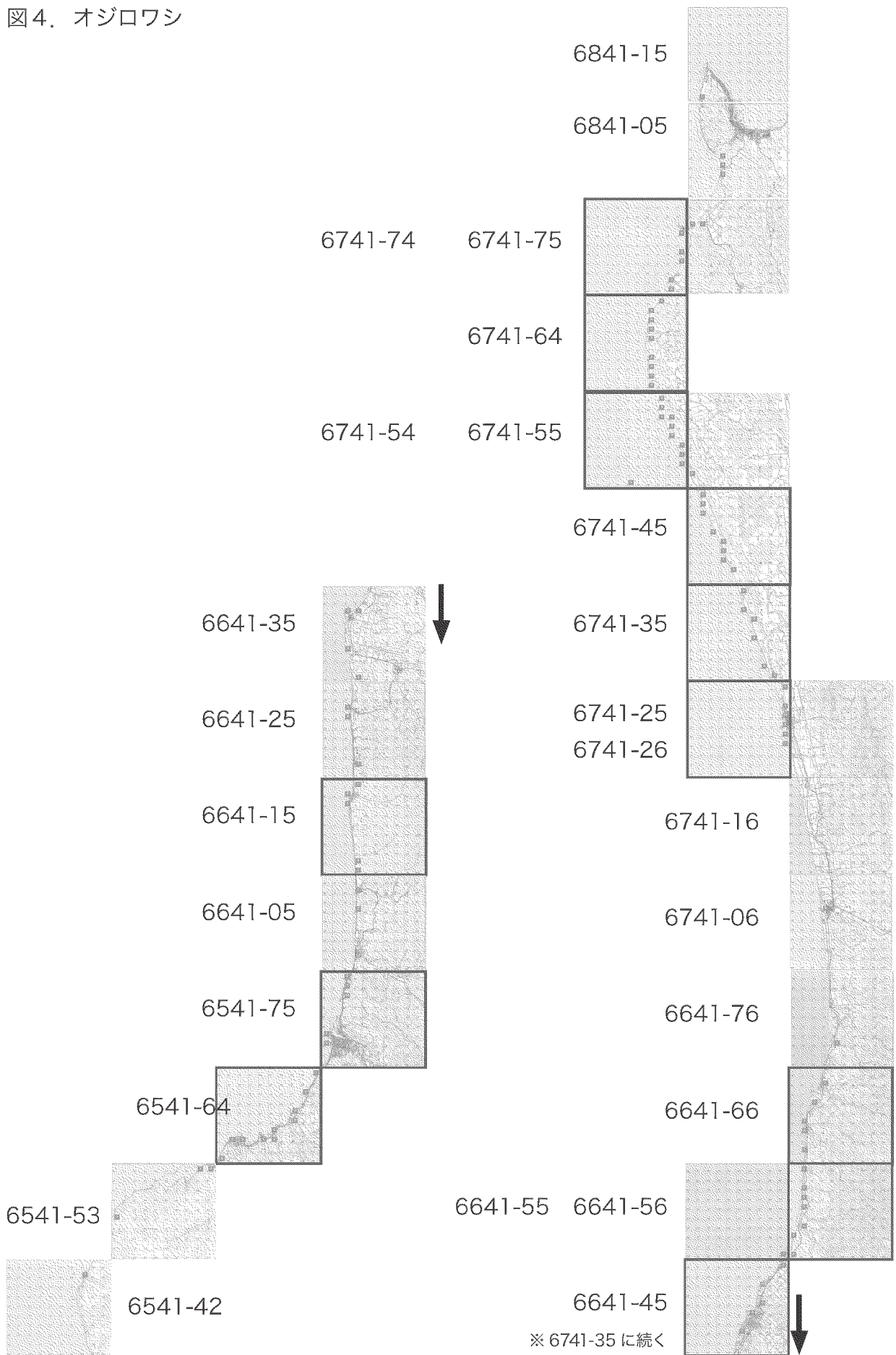


図5. オオワシ

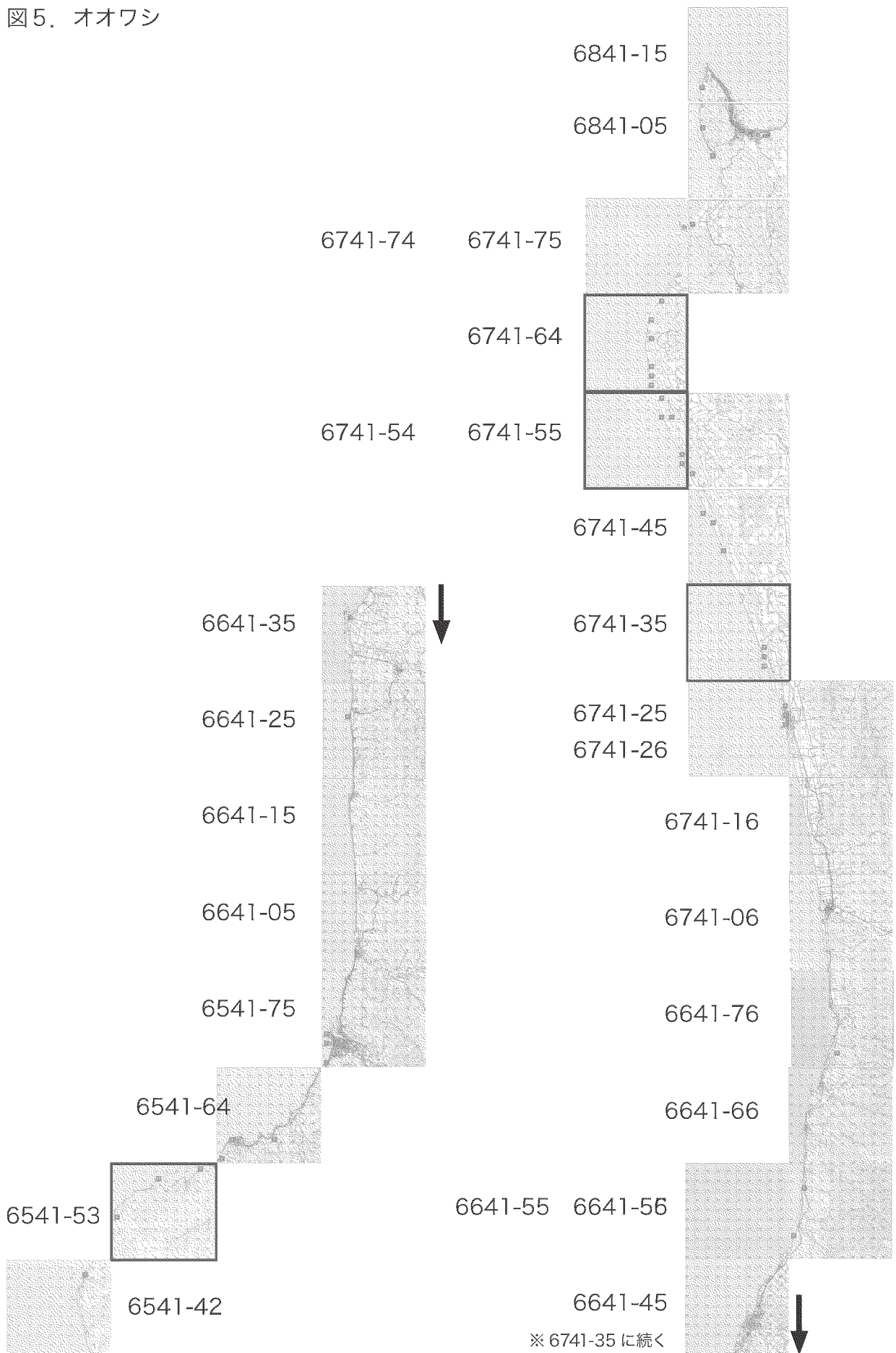


図6. チュウヒ

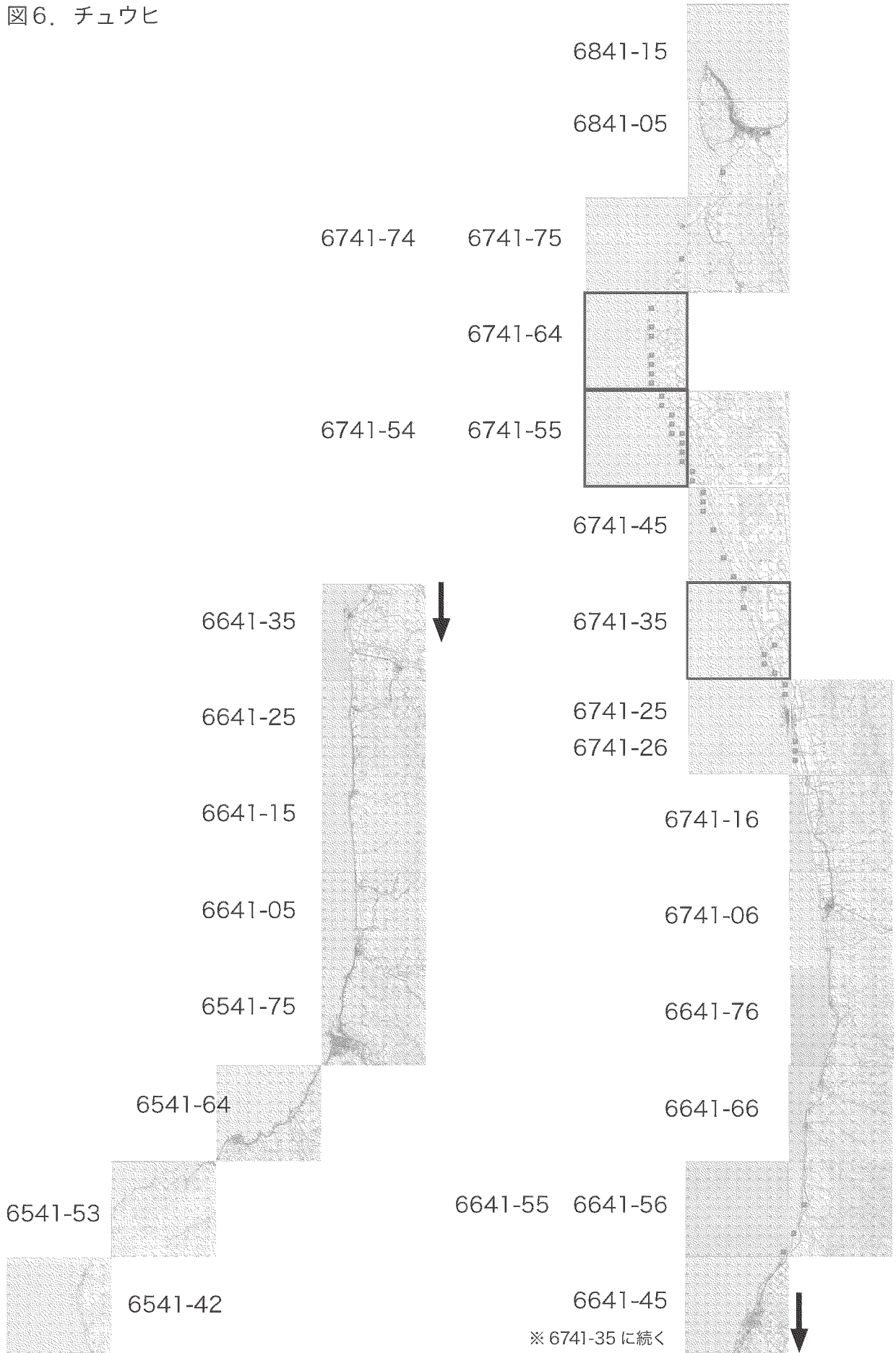


図7. ハイタカ

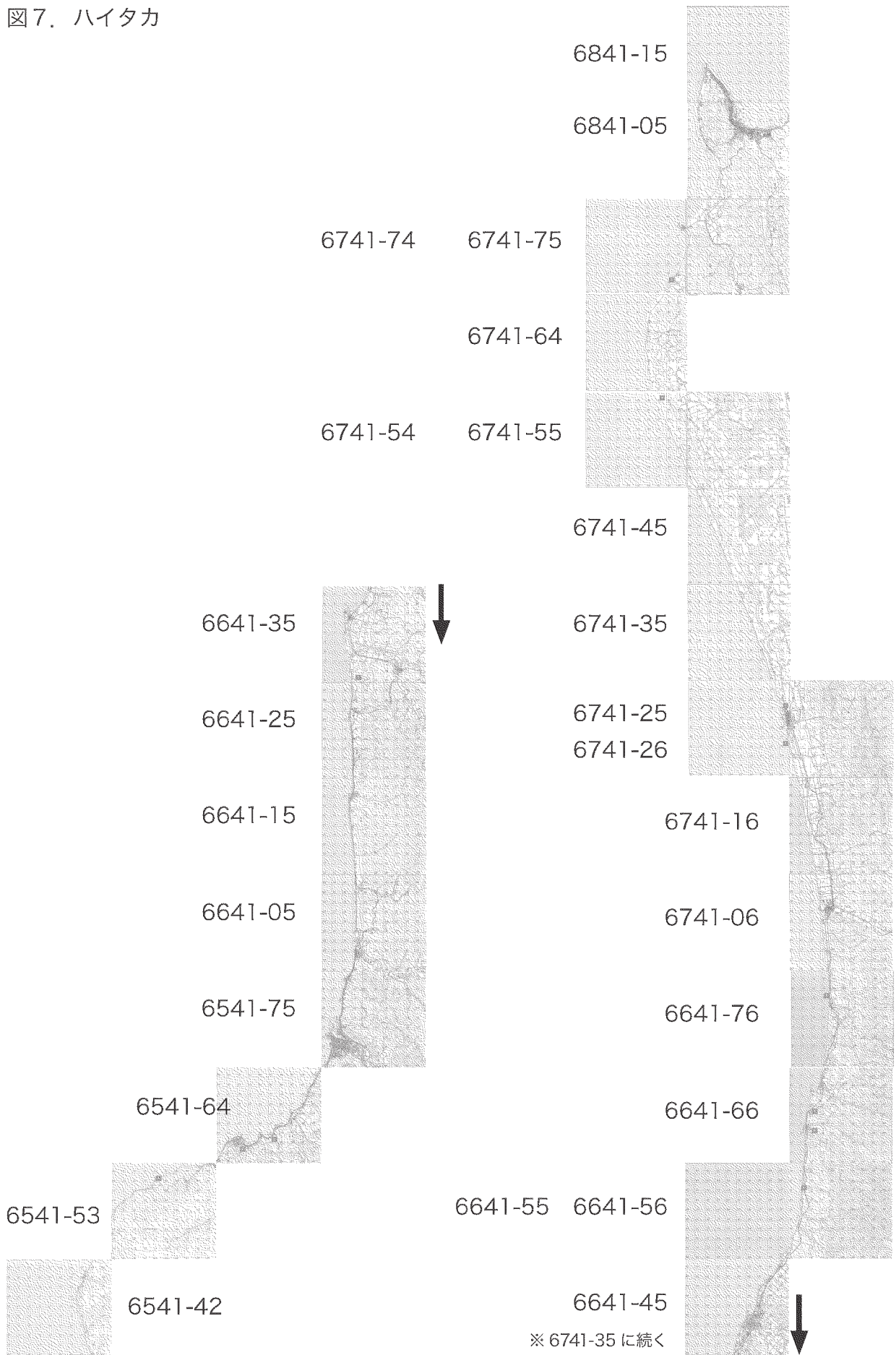


図8. オオタカ

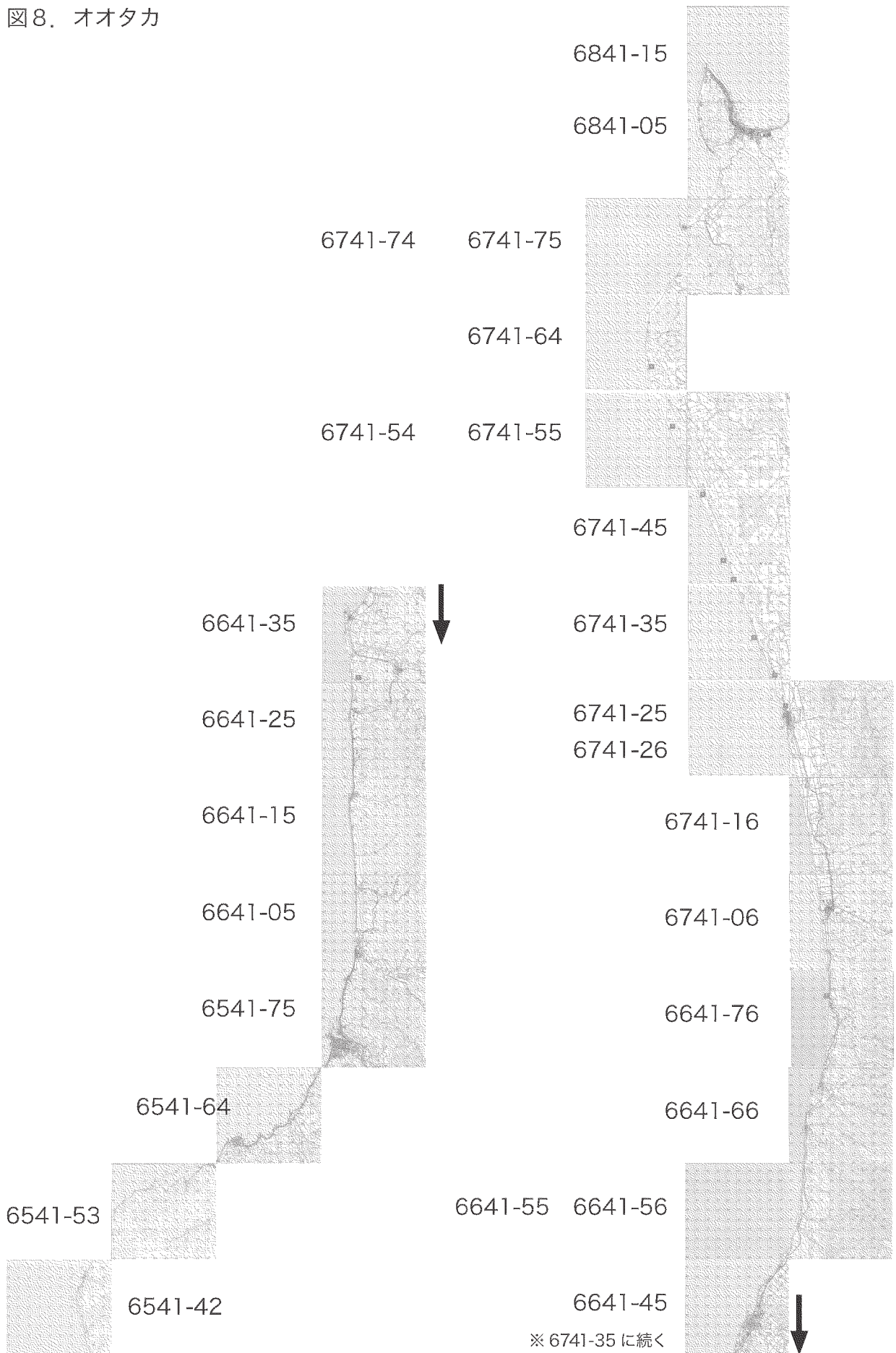


図9. ノスリ

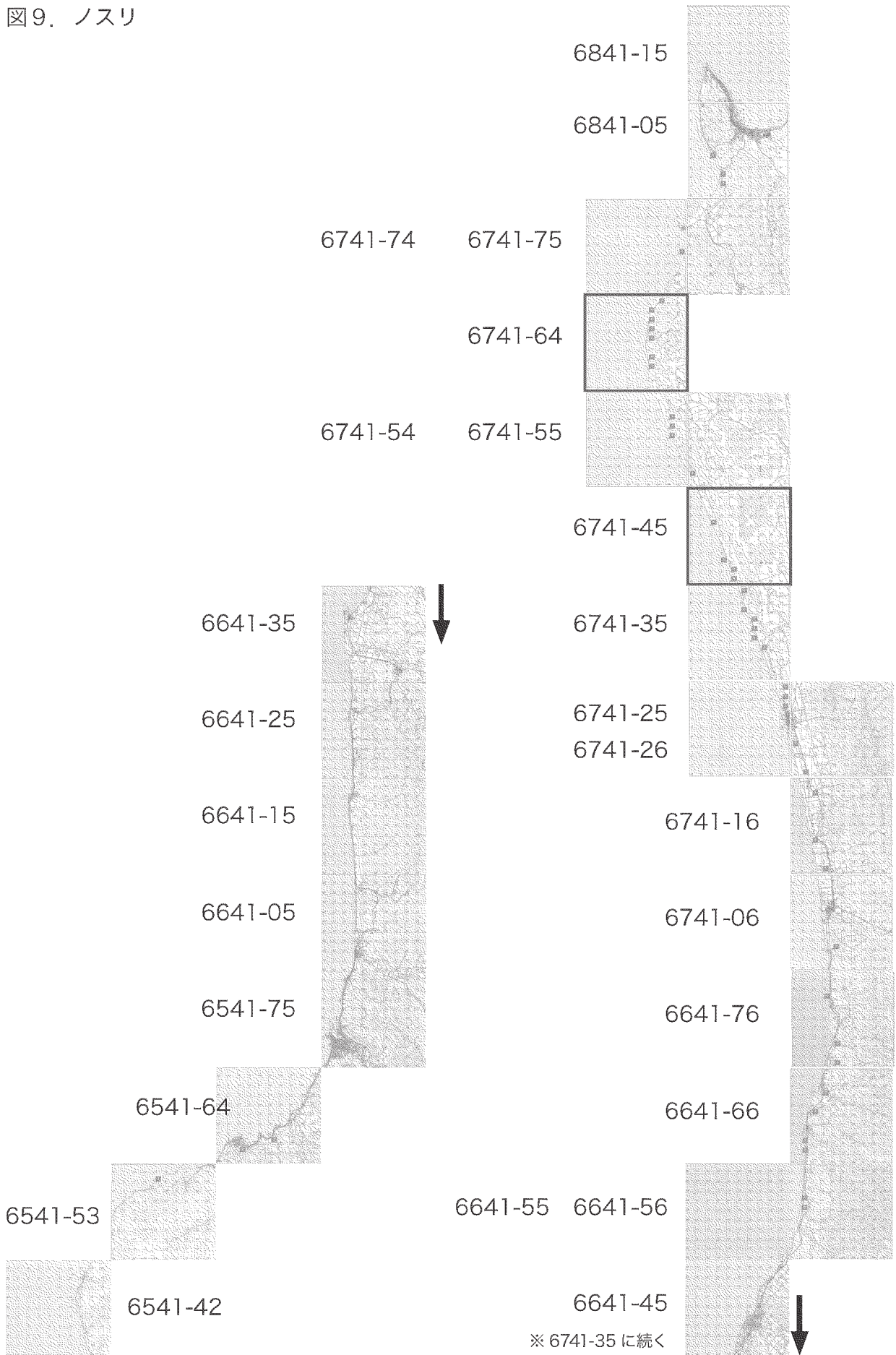


図 10. 2次メッシュ「6741-64」の出現種ごとの確認個体数

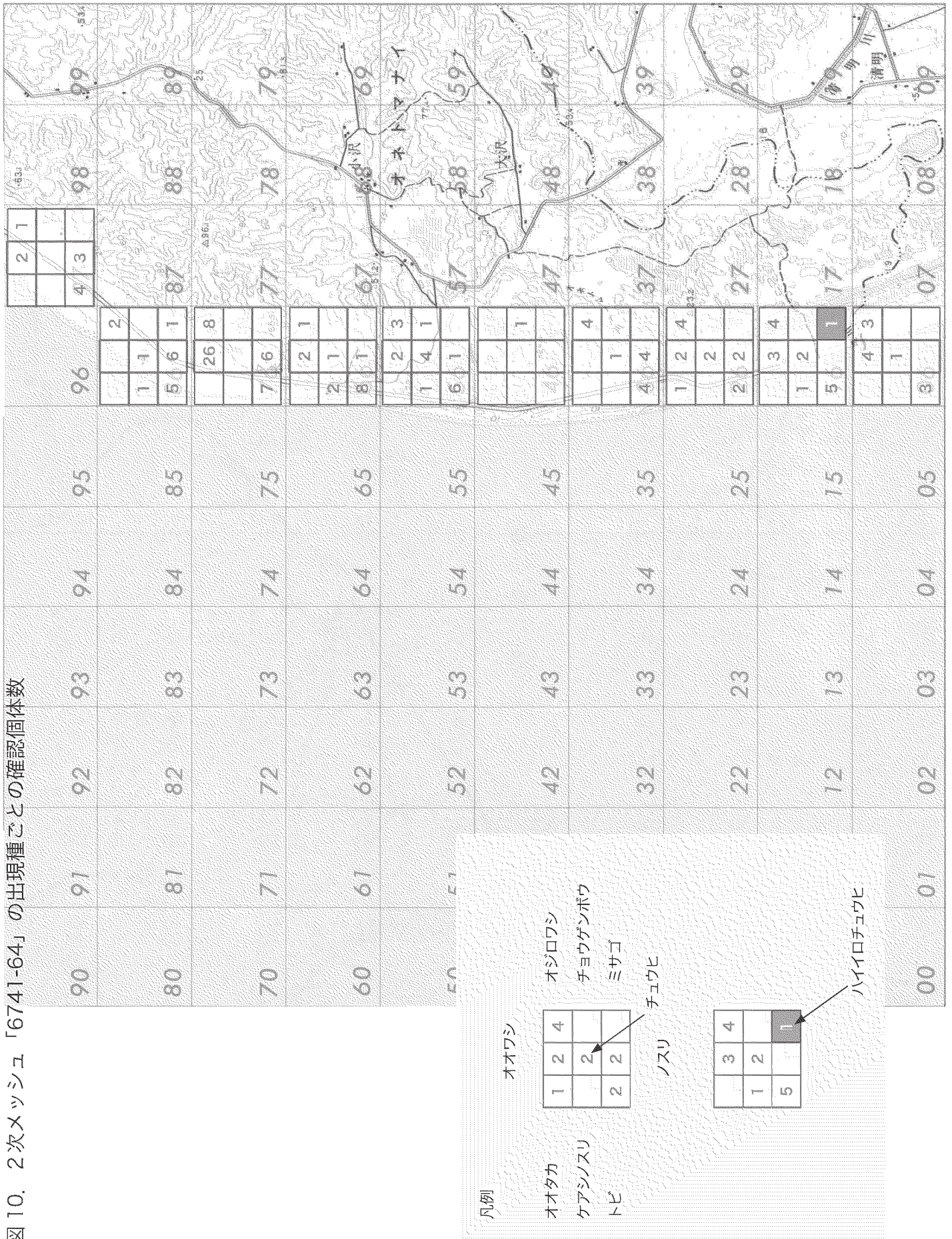


図 11. 2次メッシュ「6541-64」の出現種ごとの確認個体数

